

そんな時代もあったねと、いつか話せる日が来るために

「次に会うのは3月5日だね。」と保健室で生徒と話を別れたのが2月27日の夕方ので、まさかその夜学校が突然休校になり、まさかそのあと3か月も休校が続くなんて想像もしていませんでした。

春休み中には4月から学校が始まると思って、新型コロナウイルスからみんなを守るためにはどうしたらいいかをいろいろ考えて準備をしていたら、突然の緊急事態宣言でゴールデンウィークまで休校が延長。4月の終わりには、5月からの学校再開に向けていろいろと対策を考えていたら結局5月末まで休校が延長。予定していた健康診断はそのたびに中止になっていきました。



自分がいろいろ考えて準備していたものが何度も何度もダメになりやり直しになることが続くと、「なにをやってもむだだ」「どうせだめになるんだ」「やっても無理なら、最初からやらないほうがいいんだ」と、人はやる気がなくなっていくものです。大人である自分でさえ、がっかりすることが多かったので、「高校生になって新しい生活をがんばるぞ!」と思っていた橘高校の1年生や、「新しい学年では部活をがんばろう!」「勉強をがんばろう!」「進路をいろいろ考えよう!」「学校行事をがんばろう!」と思っていた橘高校の2年生3年生の中にも、がっかりしてやる気が出なくなってしまった人もいたかもしれません。

さて5月末までの休校の延長が決まった時に、橘高校の先生たちに、「HPに動画を作ってアップせよ!」というミッションが与えられました。

了解しました!



私も含めてたくさんの先生たちが、休校で会えない橘高校の生徒たちを励ましたい、外出自粛という大変な状況の中で少しでも楽しませてあげたい、勉強に興味を持ってほしいと知恵をしぼって動画を作り、それを応援してくれる係の先生たちのおかげで、今橘高校のHPにたくさんの動画がアップされています。

(橘高校 HP 橘 tube https://ageotachibana-h.spec.ed.jp/page_20200508012323)

それは校長先生からのメッセージだったり、教科に関係する内容だったり、勉強には直接関係ないけど、なるほどと思える内容だったりするのですが、どの教科、どの先生、どんな内容かは別として、それを作るエネルギーのもとになったのは「橘高生への愛」でした。

直接授業はできない、直接話にはできない、直接思いは伝えられない。でも先生たちは、みんなのことを忘れていない、みんなのことを心配している、みんなのことを元気づけたい、勉強に少しでも興味を持ってもらいたい...

目には見えない橘高校の先生たちのそんな気持ちが、ひとつひとつの動画に詰まっているのです。

ちょうどそれは、わたしもお手伝いさせてもらった、音楽の授業で取り組むはずだった「ひまわりの約束」の歌詞の一節のようでした。

そばにいたいよ 君のためにできることがぼくにあるかな
いつも君に ずっと君に わらっていてほしくて
ひまわりのような まっすぐなその優しさを 温もりを全部
これからはぼくも 届けてゆきたい

(ひまわりの約束 【作詞】秦基博 【作曲】秦基博)



そしてもう一つの中島みゆきさんの「時代」を歌ったときにも、今この時にぴったりの曲だなあ...と思いました。

そんな時代もあったねと いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと きっと笑って話せるわ。

(時代 【作詞】中島 みゆき 【作曲】中島 みゆき)



学校の先生を続けてきて、これほど長く学校が休校になったことも、日本中が外出自粛になったこともありません。法律で6月30日までにやらないといけないと決まっている健康診断がすべて延期になったことも一度もありません。

相手は世界中に広まっている目に見えないウイルスなので、大人たちもどうしていいかわからず、今もみんな、手探りの中で動いています。

ただここまでの大きな影響ではなかったけれど、11年前の新型インフルエンザの大流行のときは、今回以上にわずかな期間で感染が広がり、保健室には高熱の生徒があふれ、修学旅行が延期になったり、学年閉鎖になったりしました。その時にも、マスクが店頭から消えました。



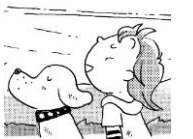
新型インフルエンザは、学校では新型コロナウイルス感染症とは比べ物にならないくらいたくさんの感染者が出ましたが、今ではふつうのインフルエンザと同じ扱いになり、「あれは大変だったけど、そんな時代もあったね」と笑って話せるようになってきました。でもそうなるまでには、大勢の人がウイルスについて調べたり、インフルエンザの診断を簡単にできるようにしたり、もっとよい薬を作ったり、出席停止の期間を変えるなどの工夫がありました。すぐには結果が出ない中でがんばった人たちがいたから、今があるので。わたしたちが今回の3か月の休校を、「そんな時代もあったねと、いつか話せる日が来る」ために大切なのは、実はこれからあなたがどうするか...なのです。



「今自分がこんなに大変なのは、あの休校のせいだ、あのコロナのせいだ!」と、思い出すたびにむかついたり、落ち込んだりするの、休校が3か月も続いたことがあったよね。コロナの時、大変だったよね。今思うと大変だったよね。」とふつうに話せるようになるの、学校が再開した今、これからのあなたがどうするかにかかっているのです。

もし何をしてもいいかわからないと思う人は、とにかく今は新型コロナウイルス感染症を防ぐための新しい生活様式のルールを守っていきましょう。そして今やるべきこと(勉強や進路に関すること)を、ひとつひとつやっていきましょう。

そうはいつでも、まだ新型コロナウイルス感染症の影響は残っていて、特に就職や進学をめざしている3年生、部活をがんばりたい1・2年生は、イライラしたり、がっかりしたり、落ち込んだりすることもあるかもしれません。そんなときは「時代」の歌の続きをうたいましょう。



だから今日はくよくよしないで 今日の風に吹かれましょう
がんばることも大切だけれど、時には肩の力を抜いてみることも必要です。そして少し元気が出たら

旅を続ける人々は いつか故郷に出会う日を たとえ今夜は倒れても
きっと信じてドアを出る。

たとえ今日は果てしもなく 冷たい雨が降っていても

という歌詞のように、「故郷」というゴール(進学や就職、部活の試合など)をめざす旅人のように、今日は冷たい雨が降っているみたいにつらくても、時には倒れても、信じてドアを出てほしい(ゴールをめざして今できることを続けてほしい)と思います。

橘高校の先生たちも保健室も、あなたがもう無理!と倒れそうときにはいつでも手を差し伸べて助けたいと思っているので、困ったときやつらいときはぜひ、保護者や先生たちに相談してくださいね。

先生たちはいつも、「ひまわりの約束」の歌詞のように

君のために出来ることが ぼくにあるかな いつも君に ずっと君に 笑っていてほしくて
と思っているからです。

橘高校の生徒全員が、それぞれの「故郷」、それぞれの「目標」にたどり着けるように、これからも応援しています。